

飯伊地区 産業経済動向

No.520 2022/7
(4.8.25 発行)



IIDA SHINKIN BANK
飯田信用金庫
しんきん南信州地域研究所

http:// www. iidashinkin. co. jp
〒395-0044 飯田市本町1-2
TEL 0265-53-5811 FAX 0265-53-1132

飯伊地区主要経済指標

主要指標	実数	前月比	前年同月比	前々年同月比	令和元年同月比	
手形交換高 (飯田手形交換所扱)	枚数	1,849 枚	△ 15.2 %	△ 14.2 %	△ 31.7 %	△ 49.1 %
	金額	2,735,792千円	△ 25.3 %	1.4 %	△ 21.6 %	△ 42.9 %
うち不渡発生状況	枚数	0 枚	(前月 0 枚)	(前年同月 0 枚)	(前々年同月 0 枚)	(令和元年同月 2 枚)
	金額	0千円	(前月 0 千円)	(前年同月 0 千円)	(前々年同月 0 千円)	(令和元年同月 292 千円)
倒産件数 (負債額1千万円以上)	県内	3 件	(前月 5 件)	(前年同月 6 件)	(前々年同月 9 件)	(令和元年同月 5 件)
	飯伊	0 件	(前月 1 件)	(前年同月 1 件)	(前々年同月 2 件)	(令和元年同月 0 件)
住宅着工戸数 (飯田市、下伊那郡 総数)(6月)	66 戸	46.7 %	△ 7.0 %	1.5 %	15.8 %	
有効求人倍率(パートを含む実数) (ハローワーク飯田管内)(6月)	1.46 倍	(前月 1.38 倍)	(前年同月 1.31 倍)	(前々年同月 0.88 倍)	(令和元年同月 1.40 倍)	
自動車新規登録台数 (松本事務所管内)	新車	1,854 台	14.1 %	△ 9.1 %	△ 15.9 %	△ 32.2 %
	中古車	739 台	△ 6.0 %	△ 2.6 %	△ 16.1 %	△ 7.6 %
軽自動車新規登録台数 (長野県自動車協会) (6月)	新車	3,606 台	35.4 %	5.2 %	△ 2.7 %	△ 16.5 %
	中古車	1,190 台	△ 1.7 %	△ 2.1 %	△ 10.1 %	12.4 %
中央道利用台数 (飯田インター分)	入	93,510 台	0.9 %	5.2 %	3.7 %	△ 19.1 %
	出	96,167 台	2.8 %	6.9 %	6.0 %	△ 18.3 %
中央道利用台数 (松川インター分)	入	57,465 台	0.6 %	3.6 %	△ 6.1 %	△ 27.4 %
	出	55,180 台	△ 0.9 %	1.5 %	△ 6.5 %	△ 27.2 %
中央道利用台数 (園原インター分)	入	19,150 台	44.6 %	36.5 %	80.2 %	48.9 %
	出	15,931 台	22.0 %	14.4 %	46.1 %	20.4 %
中央道利用台数 (飯田山本インター分)	入	42,695 台	3.0 %	2.4 %	28.4 %	4.6 %
	出	46,205 台	10.7 %	7.2 %	42.9 %	15.4 %
中央道利用台数 (座光寺スマートインター分)	入	35,284 台	△ 9.8 %	24.2 %	- %	- %
	出	34,584 台	△ 1.3 %	21.0 %	- %	- %
信用保証協会 新規保証件数 (飯田支店管内)	109 件	△ 14.8 %	14.7 %	△ 79.0 %	△ 33.1 %	
信用保証協会 代位弁済件数 (飯田支店管内)	0 件	(前月 0 件)	(前年同月 0 件)	(前々年同月 2 件)	(令和元年同月 3 件)	
高速バス乗車人数	飯田～新宿	14,081 人	14.7 %	94.9 %	205.0 %	△ 46.4 %
	飯田～名古屋	10,437 人	3.8 %	51.1 %	82.0 %	△ 43.1 %
	飯田～長野	3,564 人	△ 21.7 %	8.1 %	△ 12.0 %	△ 62.2 %
	伊那・駒ヶ根～新宿	9,825 人	13.8 %	134.3 %	291.9 %	△ 54.5 %
市内循環バス乗車人数	左回り	2,628 人	△ 2.0 %	△ 4.0 %	△ 5.6 %	△ 30.4 %
	右回り	2,682 人	△ 4.0 %	△ 5.6 %	△ 1.3 %	△ 26.0 %

◆ 本誌内容は飯田信用金庫ホームページ (http://www. iidashinkin. co. jp) に全文掲載しています ◆

本誌は、当金庫が信頼できると考えるデータに基づき作成されておりますが、データ、記述の正確性、完全性を保証するものではありません。御利用に当たってはご自身の判断によってください。

しんきんは環境にやさしい取り組みを地元のみならずともに行っています。



100%植物性油墨インキ
[リチウムリソ100] を使用しました。

再生紙を
使用しています

地区内製造業の景況判断指数

概況 景況DIはやや悪化、先行きの不透明感は変わらず

当月の製造業の業況判断指数（DI）はマイナス4.2で、前月から8.0ポイント低下。半導体産業では、世界的な物価上昇による景気の減速が今後に悪影響を及ぼすのではないかと指摘が見られた。先行き景況感はややプラスとなっているが、秋以降の受注は不透明との声も聞かれた。また、雇用に関しては現状で不足との声が多いが、思うように人は集まらないといった声も聞かれた。

主な業種の動き

●電気・精密・光学

- ☑受注、販売… 販売の前月比は業者により増減分かれるが、前年比では増加との声はやや多い。受注の前月比は横ばいとの声はやや多い。
- ☑景況感…… 当月の景況感は概ね横ばいとの声が多く、先行きについても同様。ウクライナ情勢、半導体不足、原材料高など先行きの不透明感が依然強い。

[企業からのコメント]

- ・景況感は少しずつ回復してきているが、ここに来て超円安、半導体の入手不足・価格上昇、原油高、ウクライナ紛争、中国のロックダウンによる影響で、この先の状況はさらに不透明になってきている。
- ・相変わらずの半導体不足で、毎日半導体探しに明け暮れる状況。半導体価格はますますアップしており、この状況がいつまで続くのだろうか。

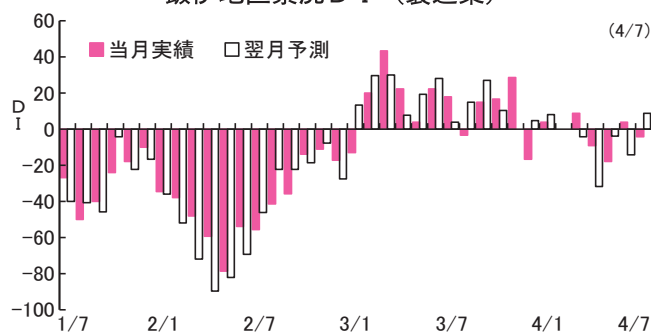
●半導体、液晶製造装置向け機械部品

- ☑受注、販売… 販売の前月比は減少～横ばい、受注残の前月比は減少との声が多い。好調は継続も、年度内は減少傾向になる可能性もあるとの声も。
- ☑原材料価格… 上昇との声は引き続き多い。以前の値上がり幅に比べればある程度落ち着いているとの声も聞かれるが、今後のさらなる値上がりを懸念する声も多い。

[企業からのコメント]

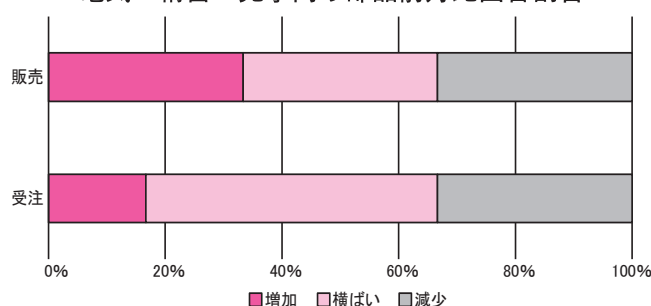
- ・「世界的インフレの進展に端を発して、世界経済が減速傾向。好調だった半導体製造装置も、メモリ系を中心に計画の見直しが進んでいる」「半導体設備投資は部材不足が解消できておらず、上海ロックダウン以降はその状況がさらに悪化している。年後半に向けても供給制約の影響が残る装置納入遅延が継続することが懸念される。ただ半導体製造装置はますます需要が旺盛となる見込みで、サプライヤも調整局面時期に投資できるか否かで、次の成長時期の波に乗れるか厳しい選択を問われる」「現在停滞している顧客からのまとまった注文があったが、一時的な注文のため本格的な復活ではない模様」
- ・「目先の原材料高騰は変化ないが、10月から一部鋼材等の価格は下がる見込み。ただし全体的には価格据え置き傾向」「以前に比べ、ある程度原材料の値上げは落ち着いているように感じるが、まだ値上げの要請はある」「取引先の担当者から、製品価格について値上げの必要があれば相談してほしいとの言葉をもらった。真剣に考えなくてはと思っている」

飯伊地区景況DI（製造業）

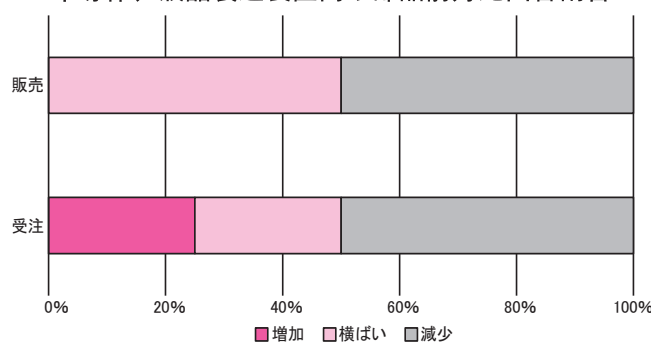


【DI（ディフュージョン・インデックス）とは…
景気に関する投票を指数化したもので、全体の回答数を分母、良い、やや良いとの回答数を分子にした割合から、全体の回答数を分母、悪い、やや悪いとした回答数を分子にした割合を引いた数値。
「先月と比べて景気が良い」との回答が多ければプラス、「先月と比べて景気が悪い」との回答が多ければマイナスとなる。

電気・精密・光学向け部品前月比回答割合

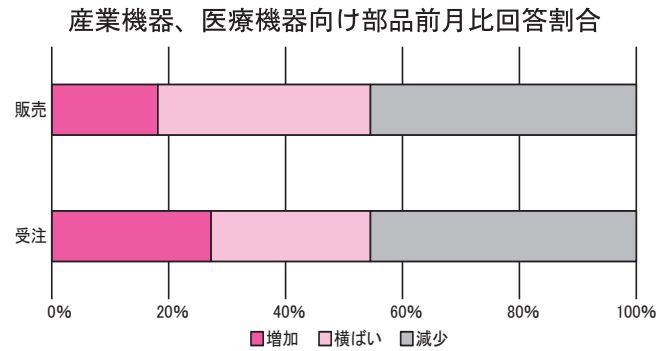


半導体、液晶製造装置向け部品前月比回答割合



●産業機器、医療機器向け等機械部品

- ☑受注、販売… 受注、販売ともに前月比は増減分かれるが、販売では減少～横ばいの声が多く聞かれた。
- ☑景況感…… 景況感は概ね横ばいとの声が多い。先行きについては好転、悪化で見方が分かれた。



[企業からのコメント]

- ・「客先によってムラはあるが、9月に向け取引先からの発注が集中してきている。ただ、10月以降は不透明との声が聞かれる」「自動車関連、ロボット関連で新規立ち上げが2社あり、受注状況は落ちていない」
- ・「先行き不透明。客先からの情報が短期間で二転三転しており、安定生産も組めない状況で非常に厳しい」「先月の受注が多すぎて、今月は減少」
- ・「今後、ベトナム海外研修生を2名採用する計画」「現状、人員はやや不足しており、今後攻めの人材確保が必須となる」「現在人員募集中で、人材確保できるまで募集を継続する」「現状、エンジニアが不足している。募集を継続するほか、学校へのアプローチ強化やWeb活用を今後検討」

●漬物、半生菓子、菓子原料等

- ☑売 上……前月比ではやや増加との声はやや多い。景況感は横ばいとの声が多い。
- ☑原材料価格…多くの業者で上昇との声。秋以降、さらなる値上がりが見込まれるとの声。

[企業からのコメント]

- ・「物価上昇が継続すると思われ、消費動向が心配」「値上げを機に業者ごとで売上に差が出て、今後集約化が進むのではないか」「漬物は商品によって増減がある。市販用はあまり動く時期ではないが、それでも鈍いと感じる」
- ・「菓子は大手メーカーの再値上げが話題になっている。中小メーカーは秋口から値上げのところが多い」「原材料価格の上昇で頭が痛い。全得意先へ価格見直しの要請に動く。10月までに何とかしたい」「資材・調味料など、品によっては2次、3次の値上げの案内が始まっている」

●水引、冠婚葬祭・祝儀用品、正月・盆用品

- ☑売 上…前月比はやや増加。次月以降も増加を見込むという。

[企業からのコメント]

- ・7月の売上は値上げの効果もあったか、昨年よりも増加した。
- ・各社とも製品値上げは完了していると思われるが、利益確保が大変な状況である。

●上記以外の製造業

- ☑建築用金属製品…販売は、前月比、前年比ともやや増加、次月以降もやや増加を見込むという。
- ☑自動車向け部品…販売は、前月比は横ばい、前年比ではやや減少。景況感はやや悪化という。
- ☑印刷……販売は、前月比、前年比ともやや増加。次月以降は横ばいの見通しという。
- ☑服飾……受注残高、販売とも前月比、前年比で増加。景況感はやや好転しているとの声。

[企業からのコメント]

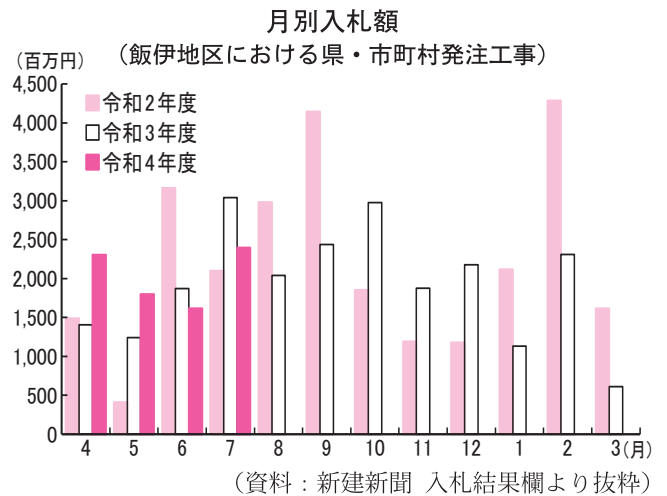
- ・時期的な要因もあり、僅かながら改善傾向。本格的な回復は年明け頃から見込んでいる。
- ・飯田下伊那のコロナ感染者増により中止となるイベントがあり、それにより印刷物も中止となってしまう。逆に、花火大会の実施が急遽決まり、短期間で対応させてもらう仕事もある。各イベントの開催については、主催者側の考え方によって大きく違いがある。
- ・今の円安と原材料高、運賃高騰の状況では、海外生産の意味がなくなってしまう。
- ・生産の平準化が難しくなっている。必要な時に必要な分だけ生産できる生産方式を再度構築しないと、今後生き残れない。
- ・コロナ禍で仕事量が少なくなる中で、同業間の競争も激化しており、適正価格をはるかに下回る金額提示も見受けられる。各資材の値上げ分がなかなか製品価格に転嫁していけない。
- ・長野県のエネルギーコスト削減助成金の申請を準備中。採択されれば空調設備の更新を実施予定。

建設業

官公需

概況 7月の公共工事入札金額は前年比で約2割減少。
新年度の工事発注は例年に比べ少ないとの声も

- ☑公共工事入札額… 当地区における当月の県、市町村発注工事の入札額合計は、約23.9億円（8月15日調査時点）。前年に比べ21.1%減少、2年前との比較では14.1%増加。
- ☑受注残高…………… 前月比は業者により増減分かれるが、減少との声やや多い。例年より発注が少ない状況が続く、競争が激しくなるとの声も。
- ☑雇 用…………… 技術者の不足を指摘する声は依然として多い。



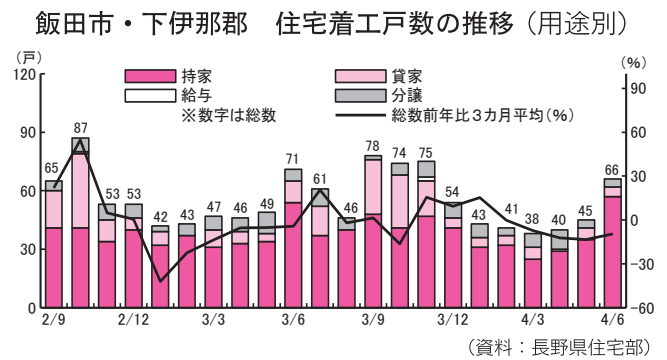
[企業からのコメント]

- ・「前年に比べ、災害工事が完了してきたためか、また各種の選挙等があるためか工事発注が少ない。設計、コンサルの仕事が出始めたので、その後の施工の発注に期待する」「秋口から、新規工事の発注がある」「発注状況は進んでいない状況」
- ・長野県でも当地域は公共工事がある方ではあるが、例年に比べると発注が少ないため入札参加者が多く競争が激しい。忙しい業者とそうでない業者の格差は激しい。
- ・「技術者、技能者の新卒採用を検討」「施工社員不足」「土木建築の技術者が不足している」

民 需

概況 令和4年6月の住宅着工戸数は66戸で前年比7%減。
2月以降、前年割れの状況が続く

- ☑住宅着工戸数… 当地区の6月の住宅着工戸数は66戸。前月比47%増、前年比では7%減。3か月平均戸数の前年比は2月以降マイナスが続いており、この傾向が継続するのか注視したい。
- ☑原材料価格…… 全ての事業者で上昇が続いているとの声。ただ、工事価格への反映は進んでいないとの声も。



[企業からのコメント]

- ・「一般工事やリフォームが、規模は小さいながら多少増えてきた。新築住宅については動きが少し落ちたように感じる」「新築工事の受注はない。リフォーム工事のみ」
- ・資材の実勢価格はこの1年で3割も値上がりしているのに対し、現実の市場価格には反映できない状況になっている。
- ・半導体関連設備の納期の不確かさは相変わらずで、現場としては非常に困る。

建設資材等

概況 7月の生コン、骨材の売上は、前月比で減少との声やや多い。

- ☑生コン…売上は前月比、前年比とも業者により増減分かれるが、減少の声やや多い。
- ☑骨 材…売上は前月比では減少、前年比では横ばい～増加。

[企業からのコメント]

- ・当月の生コンの主な出荷は、三遠南信工事、トンネル工事、店舗・工場移転工事、バイパス工事、堰堤・砂防工事、リニア関連工事に関わるものだった。リニア関連工事の出荷量は、当月出荷量全体の3%弱。
- ・一般工事がやや少なく、それに伴った生コンや骨材の出荷は少ない。一方、三遠南信やリニア工事の動き始めた現場に関わっている業者はそこそこの出荷があったが、本格的な出荷ではなく、これからが本番。
- ・現場でも、コロナ感染者が出たり濃厚接触者になったりして、工程が変更となることもあった。

商業・サービス業

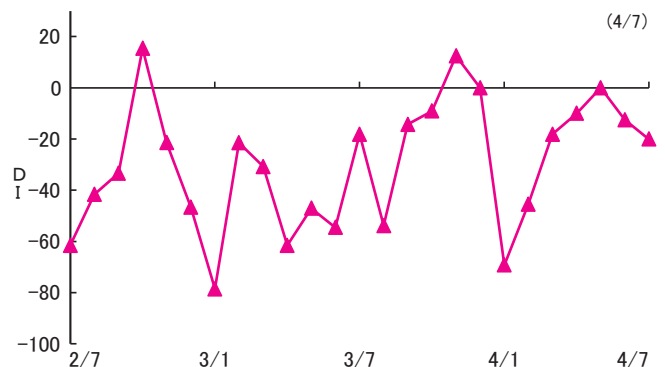
概況 コロナ第7波による影響を受け、景況感はやや悪化。
物価高による影響は、幅広い業種に影を落とす

当月の商業・サービス業の業況判断指数（D I）は、マイナス20.0で、前月から7.5ポイント低下。

7月中旬以降、コロナ第7波により感染者数が急拡大したことを受け、飲食業を中心に景況感が悪化した。ただ、国による行動制限が実施されていないため、宿泊業では第5波に見舞われた前年と比べると売上が増加したとの声が多く聞かれた。

また、物価上昇による影響は幅広い業種に及んでおり、売上が回復傾向にあっても利益確保が難しい状況であることを指摘する声は多い。消費者の反応を考えると容易には値上げできないとの声も聞かれた。

商業・サービスD I



三遠南信地域交流たずねある記（6）

三遠南信地域 路線バス乗り継ぎの旅（2）
飯田駅から浜松駅へ（2）

～コロナによる運行への影響が～

テレビ東京の人気番組「ローカル路線バス乗り継ぎの旅」（以下「テレ東番組」）に倣い、飯田から三遠南信地域内のバス路線を乗り継ぐ旅。コロナの終息を待っていたものの一向に兆しが見えないなか、路線バスの旅を再開することとした。

■国道152号線の崩落、不通

前回（令和2年11月発行号No.500）、広域バス遠山郷線で飯田駅から南信濃和田のかぐらの湯に到着、かぐらの湯からは乗合タクシー八重河内線で柿平へ、そこから徒歩で兵越峠を超えて水窪町に到着した。ここから浜松を目指すのであるが、路線バスは運休となっていることが判る。令和2年7月の豪雨により国道152号線は3箇所崩落等が起き不通に。復旧工事が進められるなか、同年10月の雨で迂回路としていた天竜川対岸の県道285号線までにも崩落が発生、通行止めとなり、路線バスは休止となっていた。

かつて水窪の方にインタビューした際、三遠南信自動車道への期待として「国道152号は頻りに雨量規制の通行止めがかかる。崩落もしばしば。災害への強靱化に期待」と聞いて、南信州地域の道路に比べればそれほど悪いとは思えないのに、と思ったものだが、正にその通りの事態となった。浜松市は復旧に取り組み、国道152号線は同年12月に暫定開通。県道も含め全面復旧は3年2月26日となった。この間工事の進捗状況は浜松市HPで逐次公表された。

152号不通時には三遠南信自動車道の東栄IC～佐久間河合IC間が供用（前年3月）されており、水窪、佐久間方面の方々にとり、同自動車道が地域の孤立を防ぐのに大いに役立った。

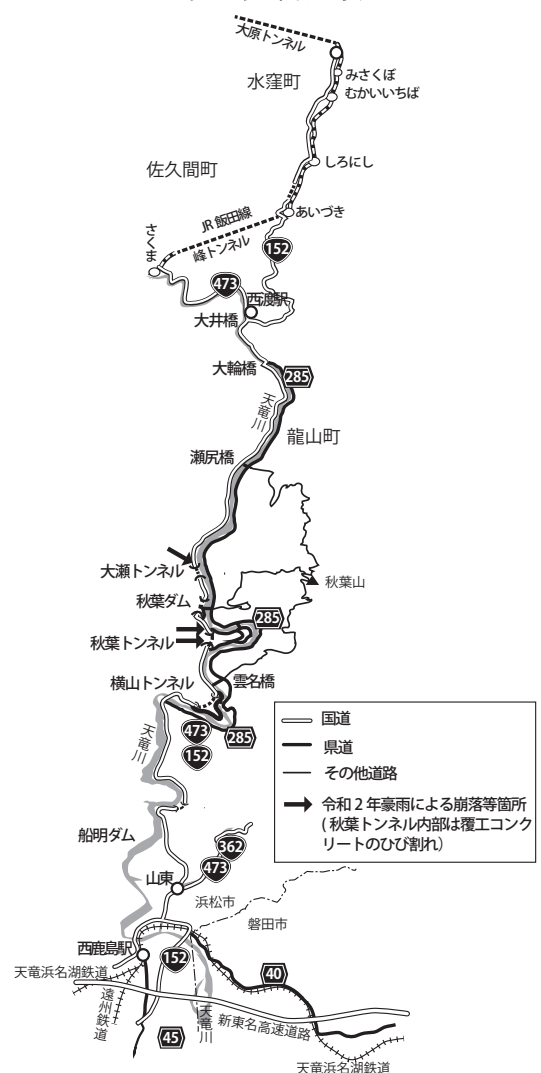
■水窪と浜松地域を結ぶバス路線

水窪町からは前回の続きで自主運行バス北遠本線15時53分発西鹿島駅行きに乗車。乗車は私と旅行者風のもう一人。これは最後まで変わらなかった。



二俣市街地と二俣城址

三遠南信地域路線バス乗り継ぎの旅 概略図
水窪町～西鹿島駅



このバス路線は、かつて国鉄が1946年から1987年に運行していた。国鉄二俣線（現天竜浜名湖鉄道）二俣駅から佐久間駅までの新線構想（「佐久間線」、飯田・中津川線と同様）があり、その先行営業の意味合いがあったという。1987年から2002年はJR東海バスが担当。2002年からは遠鉄バスが北遠本線を運行していたが2019年に撤退、替わって浜松市によるコミュニティバスとなった。運行は地元の水窪タクシーが担っている。



浜松市自主運行バス北遠本線
水窪町～西鹿島駅 800円

バスは佐久間からの国道473号との合流点を目指し進む。暫く飯田線と並行して走るがやがて152号は狭くなり、車両のすれ違いが厳しくなる。対向車は大概突っ込んでくるので、バスの運転手は前方の様子を見ながら予め避け合いできる箇所^に止まって道を譲っている。

473号との合流点に近づくと152号は2車線の改良された状態になる。国道473号合流点にある橋を大井橋というが、バスは一旦佐久間方面へ右折し、橋を渡ったところの^{にしど}西渡というバス停に停車。かつてはバス乗務員の宿泊施設に使われたという建物の前でUターンし浜松方面へ取って返した。

■天竜川沿いに

バスは天竜川に沿って152号（473号と重複）を走る。大輪橋で天竜川を渡りこの先は右岸を走る。左岸には並行して県道285号線。この辺りから天竜川の流はゆったりとし、ダム湖（秋葉ダム）の様相を呈してくる。



天竜川沿い人工林

天竜川に沿って見事な人工林が続く。そういえば小学校の頃「日本三大美林」という言葉を聞いたな、と思い出し調べると、「①木曾ひのき ②津軽ひば ③秋田すぎ」とあり、あれ違ったかな、と思うと続いて「人工林の三大美林として①天竜すぎ ②尾鷲ひのき ③吉野すぎ」が出てきて、記憶違いでなかった。私たちの頃は修学旅行というと飯田線で豊橋・名古屋方面へ向かった（北へ行くこともあるが）もので、道中のこととして旅行のしおりに書いてあった。この造林事業には^{きんばらめいぜん}金原明善翁の尽力があったことも副読本などで勉強したもので、今の子どもたちはどうなんだろうか。



秋葉ダム（浜松市天竜区）

秋葉ダムの横を通過し、秋葉トンネルを過ぎると秋葉神社への入り口を示す巨大な対の石灯籠が並ぶ秋葉神社へいく県道285号の分岐点（停留所は秋葉橋入口）となる。現在の国道152号が秋葉街道と呼ばれる所以の場所。昔の人はここを目指し街道を往来した。



秋葉神社石灯籠と雲名橋（浜松市天竜区）

初めて兵越峠を越えて北遠に来た時、峠を越えてからここまでの道中の長いことに驚いた。信仰によるものとは言え、信州方面から歩いてここまで来ることの凄さを感じ入った。

■二俣地区を経て終点西鹿島駅へ

次の船明ダム湖を過ぎると旧天竜市の中心部二俣地区になる。バスは国道152号を離れて二俣市街地に入り旧天竜市役所の天竜区役所などのバス停を通過していく。ここを過ぎるといよいよ終点の西鹿島駅になる。西鹿島駅という名は馴染みがなかったが、調べると天竜浜名湖鉄道の駅であり遠州鉄道の終着駅であることが判る。始発駅は、あの三遠南信しんきんサミットの遠州開催で物産展などの会場となるギャラリーモールから見える遠州鉄道新浜松駅である。

西鹿島駅で降り、今来た方を振り返ると、二俣城址や二俣の街が天竜川、二俣川の合流点に面して交通の要所であり、全体城塞のように見えなくはない(本頁下写真)。まさに浜松を含む遠州平野の喉元となっているのが判る。

戦国時代、甲斐の軍勢が青崩峠(兵越峠)を超えて天竜川沿いの溪谷を南下して来て二俣までたどり着いたとき、この二俣を確保できるかが作戦の帰趨を決することになる。二俣城は、武田信玄の元亀4年(1573年)いわゆる三方ヶ原の戦いの際、徳川方の城で抵抗を続けたがついに落城。武田信玄の遠州・三河への侵攻へと繋がった(その後、野田城で発病、根羽または駒場で病没)。

城址を訪れると本丸には天守の石垣が残されている。本丸から下を見ると天竜川の流れが城からの崖を洗っている。遠くは平野を見通すことができ、戦略上の要所であることを改めて思う。



二俣城址



本田宗一郎ものづくり伝承館
入場料 無料

■二俣の街で発見 ものづくりの原点

この街はHONDAの創業者本田宗一郎氏に縁のある処として、本田宗一郎ものづくり伝承館が二俣城址の近くに設置されている。本田宗一郎氏は天竜区山東(旧磐田郡光明村)の出身で二俣城址に間もない現浜松市立光明小学校に通っている。伝承館は小ぶりながら、たくさんの貴重なバイクや宗一郎氏の辿った軌跡がわかり易く展示されている。改めてじっくりと訪れたい場所であった。

いよいよ次は浜松駅へ向かうバスとなる。



西鹿島駅方面から見る二俣城址、天竜・二俣川合流点

(飯田信用金庫 しんきん南信州地域研究所 リニア・三遠南信対策室 加藤 修平)

『ひろしまサンドボックス』× キャンピングカーシェアリング

● 広島県のデジタルトランスフォーメーション（DX）の取り組み「ひろしまサンドボックス」。

「スマートシティ会津若松」など、自治体による、DXの推進・デジタル技術を取り込む試みは数多いが、化学・造船・自動車など「ものづくり」を中心に成長を続けた広島県も、さらなる成長を求めて「イノベーション立県」を掲げ、大きく3つの施策「イノベーション・ハブ・ひろしまCamps」、「ひろしまデジタルイノベーションセンター」、「ひろしまサンドボックス」を展開している。

- ・「イノベーション・ハブ・ひろしまCamps」… 県民、県内企業が新たなビジネスや地域づくりにチャレンジするために2017年に設けられた常設の拠点で、コーディネーターを常駐させ、ほぼ毎日アクセラレーションプログラム（※1）を実施。
- ・「ひろしまデジタルイノベーションセンター」… 県内企業がモノづくりのデジタル化を目指して、様々なチャレンジができる拠点で、スパコンの共同利用環境を整備し、マツダ等が得意とするモデルベース開発（※2）に取り組むとともに、人材育成サービスも行っている。

※1 「短期間で事業を成長（スケール）させるためのプログラム」といわれる。ベンチャー企業や中小企業を対象に、アクセラレーターと呼ばれる支援者との定期的な面談（メンタリング）を通して、事業アイデアや新規ビジネスの検証・精査（ブラッシュアップ）を二人三脚で行っていく伴走型の支援（ハンズオン支援）のこと。

※2 コンピューター上の「モデル」を使い、シミュレーションを駆使した開発を行うもので、試作を繰り返す従来手法よりも、開発期間の短縮や品質の向上などのメリットが得られるとされる。

「広島県をまるごと実証フィールドに！」を掲げる「ひろしまサンドボックス」では、2018年、県内外に広く門戸を開き、AI/IoT分野の実証プロジェクトを公募する取り組みを行った。自由提案型プロジェクトでは89件の応募から9つのプロジェクトが選ばれ、2021年3月までの間実施した。

「サンドボックス」は砂場のこと。砂場は何度でも作っては均すことができるように、この取り組みの最大の特徴は「失敗してもいい」。行政が率先してリスクをとって、これまでにないソリューションを広島の地で生み出す戦略で、自由提案型の実証実験の取り組みには、湯崎英彦知事の肝入りで3年間に10億円規模の予算が投入された。

● 「ひろしまサンドボックス」× キャンピングカーシェアリング

「ひろしまサンドボックス」は、2020年度から、新型コロナウイルス感染症の拡大による地域の諸課題を、デジタル技術を活用して克服しようと「D-EGGS PROJECT」を開始した。1件1,300万円の実証費支援などを用意。3密対策等が必須となった社会環境変化に対応すべく、オンライン化などの新しい生活様式や新しい価値観に適応するソリューション（製品・アプリ・サービス等）の提案を全国から広く募集し、県内外のプレイヤーの共創によるプロトタイプ開発から県内フィールドでの実証実験まで、幅広く支援している。



ものづくり界・広島を支える中小製造業に導入しやすいIoTを	推進イノベーション
01 つながる中小製造業でスマートものづくり デジタルソリューション株式会社	01
ICTレモンが島の未来をつくる	02
02 鳥しよ部傾斜地農業に向けたAI/IoT実証事業 一般社団法人ひろしま情報倶楽部	02
03 スマートかき養殖IoTプラットフォーム事業 国立大学法人広島大学	03
04 宮島エリアにおけるストレスフリー観光 西日本電機株式会社	04
05 AI/IoT活用による保育現場の「安心・安全管理」のスマート化 株式会社アイダグ	05
06 通信型ITSによる公共交通優先型スマートシティの構築事業 中電技術コンサルタン株式会社	06
07 海の共創基盤 ～せとうちマリンプロムナード～ 株式会社ピーシーズシステム	07
08 異なるプラットフォーム間での有機的なデータ結合を行い、新しいサービス創出に取り組める、データ連携基盤の構築とその実証 ソフトバンク株式会社	08
09 広島県民の医療や健康等個人情報にブロックチェーン型情報管理と情報信託機能を付与した情報流通基盤を構築する事業 国立大学法人広島大学	09

4 事業について：バンライフのプラットフォーム



現在、「バンライフ」を体験したいが、情報や機会がない人に対して、シェアリング事業を展開しています。日本初のキャンピングカーのシェアリングサービス事業を核とし、旅→働き方→暮らしの充実を目指します。

「Carstay 株式会社」も、「D-EGGS PROJECT」でプロジェクトの実証実験が採択された企業の一つ。

「誰もが好きな時に、好きな場所で、好きな人と過ごせる世界をつくる」をミッションとする同社は、2018年に創業した横浜市のスタートアップ。MaaSの領域で、新しい旅と暮らしのライフスタイル「VANLIFE (バンライフ)」をテーマに、購入者が年間9割利用していないキャンピングカーのカーシェアに加え、遊休地を車中泊スポットとしてシェアする予約プラットフォームを提供している。ちなみに、自然に囲まれたキャンプ適地や車中泊適地に恵まれた当地域では、2か所のみが車中泊スポットとして登録している。

Carstay 株式会社が行っているプロジェクトは「三原車内寝泊計画」。「D-EGGS PROJECT」では、その実証実験を行った。

「三原車内寝泊計画」は、観光スポットが点在し、公共交通手段によるアクセスが弱いため集客が難しく、来訪者の滞在時間を確保できないといった課題がある広島県三原市で、「キャンピングカーシェア」「車中泊スペース」のシェアを活用し、このエリアを「キャンピングカーで来やすい街にする」ことが目的。旅行者の滞在日数を延ばし、観光消費の増加を図り、将来的には「定住」も視野に入れた取り組みである。

具体的には、①民家・商店・事業所・キャンプ場・温泉旅館・ホテル・シェアハウスなどの駐車場や空きスペースを車旅人/バンライフ向けの車中泊スポットとして拠点を整備、②それに加え地域ならではの体験を発掘、③広島県内をはじめ、関西や九州地域など、広島県周辺地域でカーシェアできるキャンピングカーの登録・利活用を促進、④そして、住民にバンライフに関する啓蒙活動を行う。

実証実験の結果、このプロジェクトは三原市民にも受け入れられ、市民約110人向けに行ったアンケート調査で、認知度は7割、9割以上がバンライフや車中泊プロジェクトを「歓迎」「期待する」と回答。バンライフでの地域活性化プロジェクトを介した、観光振興や関係人口の創出などに対して前向きな見込みがあったことから、2021年11月、Carstay 株式会社は、三原市、KOTOYA と包括連携協力協定を締結。三原市にも拠点を構え、「三原車内寝泊計画」が定着するよう基盤構築から取り組み、訪日外国人の観光なども視野に、初年度約7,500万円の経済効果を目指すという。(図表出所：広島県、Carstay 株式会社)

(飯田信用金庫 しんきん南信州地域研究所 中村 達)



飯伊地区全産業景況DIの推移

飯伊地区景況DI (本誌調査)

